

令和7年度 えりも町総合教育会議議事録

令和7年12月3日（水）

開会（午後4時00分） 進行：教育長

教育長

それでは、本年度のえりも町総合教育会議を始めます。
始めに町長から、挨拶をいただきます。

町長

年1回、こういう場を設けていただきありがとうございます。
全国的な人口減少は、当町も同様で、一時は特殊出生率が全道一の時期もありましたが、児童生徒数も減少していきている中で、笛舞小学校の後利用や認定子ども園をはじめ、町立えりも高校の存続など様々な教育的課題もある。
それぞれの課題に対し、教育委員の皆様にもお力添えいただきたい。

教育長

それでは、意見交換に入ります。
議題1は、笛舞小学校の後利用についてであります。
12月23日（火）に第2回目の地域懇談会を開催する予定であります、この資料はその際に使用するものです。第1回目の会議で出された要望や教育委員会で検討したものを説明しながら、皆様から意見をいただき、23日の会議に臨みたいと思います。
中川課長からその経緯や改修内容について、説明をお願いします。

中川学校教育課長

資料1に基づき説明

教育長

今回の図面、改修費用の積算など建設水道課久保専門技師に協力をいただいた。久専門技師から補足があれば、お願いします。

久保専門技師

教育長から話をいただきて、できるだけお金をかけないように検討した。使える物は使いながら、合宿施設となると最低、シャワー室が必要となるが、シャワーの設置場所は、建物が鉄筋コンクリート造なので、床下に配管スペースがないとできないため、教材室をシャワー室とした。

また、不特定多数の方が利用するため、新たに誘導灯や非常用照明を設置したり、トイレも和式から洋式に改修したりするなど現段階でこれだけの費用が掛かる見込みである。

教育長

意見交換したいと思います。

町長

笛舞小学校は町内でも新しい学校である。民間に貸すことになると地域の方が使用できなくなることもあるって、地域や町民が利用できて喜ばれるような施設になってほしい。

また、今回オープンした日高町富川の「とみくる」では、室内に滑り台やプラスチックのボールを入れた遊び場があった。せっかく、お金かけてやることなので、それらも取り入れてもいいのではないか。

教育長

財源については、アイヌ関連の補助金を活用できると聞いている。

田名部委員

学校と地域や保護者の関わりが他の地域と比べても、特に笛舞は関わりが強い地域で協力体制が整っている。

先日の学習発表会に参加したときに、上野議員がいて、今後のことと少々話をした。「お金がかかるかもしれないが、とにかく、地域で施設を使用していくんだ、どんな結果になんでも使っていく」との気持ちが強いので、23日の地域懇談会がどういう形になっていくか、まだ建物も新しいので、災害のときの避難場所として、町民が使用できる利点もある。

川崎委員

地域の要望を聞きながら、それを反映させていくことは素晴らしいことである。笛舞の地域の方も感謝すると思う。と同時にえりも町民が揃って有効活用できる場だと確信している。

藤井委員

今でも合宿がきている。以前にいたえりも高校の先生の伝手で転勤先の高校がえりもに合宿にきている。えりもは他と比較すると冷涼であることもあって、結構、来てくれるのではないか。この計画は、良いと考えている。

副町長

施設的には新しい施設である。町民など来ていただいた方に有効に使用してもらえばと思うし、防水シートなど、ある程度、補修して、東洋小のようになれば、どうしようもなくなる。有効利用してもらえばいいですし、いろいろなアイデアがあると思うので、取り入れながら進めてほしい。

総務課長

笛舞小学校を建てた当時の担当が副町長だった。財源を調整したのは私であった。当時、特殊な財源を調達した。方向性が決まれば、どういう補助金や起債など、財源を充てるのが仕事なので、中身どうこうではない。

教育長

管理はしなければならないので、フリースクール（憩いの教室）を置いておくと、先生を配置し管理してもらえるので、痛みも少なくなるのかなと思う。ただ、夜のことを考えると管理人を常駐させないとならないし、お金もかかる。

町長

大人だけでなく、子どものことも考えてほしいし、是非、取り入れてほしい。

町内の親御さんが、ちょっと笛舞まで連れていってくるかなと施設を使用してもらえばいい。

教育長

それでは、議題2に入ります、福祉センターの使用についてです。

今後、福祉センターの大規模改修が課題となっている。

増田課長から説明をお願いします。

社会教育課長

福祉センターは昭和45年に建設され、これまで、屋根、非常階段の改修、バリアフリートイレの設置など計画的に改修を行ってきた。しかしながら、本体の大部分は建築から50年以上経過していることから経年による窓やサッシのゆがみを始め、大規模な修繕が必要となっている。

教育委員会では、福祉センターの改修又は改築について、検討を進めている。

資料2に基づき、説明した。

教育長

耐震診断をするなかで、改修や改築を検討していくが、耐震診断は780万円ほどかかる。

町長

8年前に町長になったときに、複合施設の案があった。場所はスポーツ公園の一部を利用しながら、結果的には計画を断念した。今ある施設を補修しながら、使って行こうということで、現行の広さで改修しながら、活用できればと思っていた。

耐震化の診断しながら、現施設を改修できるのか、それとも改修も無理で建て直しが必要か、様々なことを考えると耐震化が可能となってほしい。

改修内容としては、現在大ホールが2階にあることで、高齢者や障害者にとっては、階段は厳しいという声がある。

改修可能であれば、エレベーターを設置することができないか、エレベーターの設置についてはたいへんな工事になると捉えていたが、ある町外の建築会社に聞いたところ、2階に上がるエレベーターは、油圧式のエレベーターなら、そんなに金額がかからない工事で済むと聞いたが、大前提として耐震化が必要である。

解体に2億円かかるのであれば、そのお金で改修できる思いはある。耐震化がクリアできて、使いやすい福祉センターになればいいと思うし、いずれにしても、福祉センターの窓が古くなつて風が吹くと音がするし、夏は暑くて仕方ないので、中会議室にエアコンを設置し対応した。

田名部委員

今の場所で耐震補強して、エレベーターを設置してほしい。なるべく子どもたちも、親御さんも気軽に来れるような雰囲気づくりも必要である。

川崎委員

高齢者などが利用したすいようエレベーターを設置してほしいが、何せ予算が莫大である。

藤井委員

耐震診断で改修ができるような結果が出ればよいと思う。改築ではなくて、改修にして、もっと使いやすくする方が、莫大な予算が必要になるので、改修の方が理解が得られると思う。

町長

改築にお金かけるより、利用価値があるような改修にお金をかけた方がいい。

副町長

耐震化ができるか、そこが一番だと思う。耐震化ができれば、様々な活用方法のため、改修できればいいと思う。

総務課長

耐震化の結果次第で、どうなるかわからないところがあるので、耐震化で改修ができるとなったとしても、先ほどの笛舞小学校の後利用の改修もあり、同時に難しいが順番を付ける必要性も出てくる。

教育長

次に議題3児童数減少と小学校についてです。資料3をご覧ください。

えりも岬小学校は、現在、PTAと地域で話し合いをしているが、その結果がまだ出ていない。その岬小は、令和9年度から1年と2年が0人のため、教頭配置が難しくなるが、教頭を配置しても担任をしながら授業をしなければならない。令和13年度には、児童が6名しかいないため、事務職員及び養護教諭がいなくなるなかで、学校を運営しなければならないため、そう言った場合には教育委員会で検討する必要がある。

また、庶野小学校は、現在では、PTAや地域で話題になっていない。

庶野小学校で、目黒から通学する児童は、来年度3人、その後、令和9年度に1人になるが、次年度以降、3～4人となる。令和13年度は、庶野の子は7人となりそのうち、4人が目黒の子となる。

子どもが1人でも、学校を運営しなければならない。

教育長

次に議題4のえりも高校への支援についてです。

今説明した今後の町内の児童数の減少から、これまで7割の生徒が中学校から進学していた

が、そもそも母数が減ることから、今後、財政的な問題もあるが、学校が存続できるかが鍵となる。

事務長から今年度と来年度の支援について、説明願います。

■事務長

今年度からは、部活動や講習を受講する生徒のためにスクールバスの下校便の運行を行っている。次年度は入学者に対し指定ジャージや上靴などの経費に充ててもらうよう1人当たり3万円を助成するため、予算化している。

■教育長

スクールバスは、今年度から午後6時50分発の便を運行し有効に活用されている。

■町長

国もスクールバスの縛りを徐々に緩和されてきている。地域の足を確保するために、公共交通もなくなる、新たな公共交通は、町の負担も大きいため、スクールバスに町民や観光客も利用できるような制度を構築できればよい。

また、えりも高校は重要である。えりも高校が存続できないと町に活気がなくなるため、1年でも長く存続させたいと思っている。

一方で子どもが直接、活用方法を検討するため、生徒会などに直接、支援する制度を検討している。いろいろな発想でやってくれれば、活気も出てくる。そういうことが話題になれば、少しでもえりも高校に行く人が増えるのではないか。

■教育長

12月22日に3年生が中心となって、総合的な探究学習の発表があるので、参考になるものがあるのではないか。

■町長

広尾高校は道立なので、学校運営に係る費用は北海道が負担するため、こういった生徒確保対策は町の事業で進めているが、えりも高校は町立であるため、すべて、町が負担しなければならない。町民が広尾町とえりも町の取組みを比較されると厳しい。

■教育長

来年度のえりも中学校3年生も様々な希望もあって、町外に出る生徒もいるが、約7割の生徒がえりも高校も希望していて、広尾高校に行く生徒はいない。

■教育長

時間も無くなってしまったので、本日、全体を含めて、教育委員の方に一言ずついただきて、最後に町長からいただきたいと思います。

田名部委員

私もえりも高校の第1期生で、その頃と比較すると今はすごく恵まれているが、町民が今一それをわかつていいない。

先日、学校訪問で行った際に、ちょうど探究学習の内容をどうするか話し合っていた。ここに直接、予算がつけば、もっと深いところまで調べることができるし、さらに福祉センターにWIFIがあると発表の場として、さらに町民が来てくれ、高校生の発表の場を見るができるのではないか。今後も高校生の活躍の場を卒業生として見守っていきたい。

川崎委員

小中高の公開授業などを参加させていただいて、そのなかで共有しあって、先生方の学びの場として、そこから生徒への指導していく、私も学びの場としていて、すごくありがたい。

えりも高校は人気がある。保護者が安心して通学できる高校にしてほしいし、存続のための方策も構築してほしい。

藤井委員

先ほどの統合の話は、地域やPTAで話し合が進まない限り、我々にはどうにもならないと思っている。そして、町長の話を聞いて、子どもたちの活動への助成に対し、素晴らしいことだと思った。えりも高校の未来を考える会の中で、大人が話し合をしても、なかなか子どもたちの心に響かない。子どもたちが子どもたちを呼ぶ方がたくさん子どもたちの心に響くのではないか。子どもたちに助成をすることは素晴らしい発想だと思うので、是非実現してほしい。

町長

えりもの教育に関して、お力添えをいただき感謝申し上げます。

町としてできること、子どもに対し何ができるか、少しでも子どものために、子どもの考えで自由に使える予算を確保して、子どもの発想で活動してもらうことで、他町からでも、一人でも多くえりも高校に入学してもらえるよう考えていくうと思っていますし、やはり、えりもに限らず、少ない子どもに対し何をしてあげれるか、教育委員会も含めて、えりも町内の学校に通学する児童生徒が「良かった」と思えるよう頑張っていきたい。教育委員の皆様にも何かあつたら意見を聞かせていただければありがたい。

閉会（午後5時03分）